

研修報告書 No.21

令和6年2月の一ヶ月間高知県内の研修病院にて地域医療研修を行いました。高知県は東から西にかけての広大な面積を有する県であり、場所によって医療にかなり差があると感じました。私は高知市内からは離れた場所にある研修病院で研修を行いました。院内で完結できる医療にも限界があり、治療が困難な場合にはドクターヘリや救急車での転院搬送が必要となります。研修期間中にも救急車での搬送で同乗する機会があり、片道1時間程度と長距離移動となりました。このように高知県内でも、大学病院や救命救急センターがある高知市内と比較すると、その場で提供できる医療にも限界があると感じました。

高知県は日本の森林面積ランキングで森林率が第一位ですが、その森林の中にも町が存在しており、私が研修を行った病院も森や海に囲まれた環境でした。近隣の医療機関への通院には車などの交通手段が必要であり、私が研修を行った地域にも公共交通機関は存在しますが、便数が少なくアクセスも良いとは言えません。近隣の病院への通院も困難な方も多数存在しており、往診の必要性を痛感する一ヶ月となりました。県外から来た身としては、高知では地域による医療の差が非常に大きく、往診などの医療サービスがさらに広がっていく必要があると感じました。しかし、往診は車等で各患者さんの自宅を訪問して医療を行うため、移動に時間がかかり、一日に訪問できる患者さんの数はかなり少なくなってしまう点です。病院の外来での診療であれば同じ時間でより多くの患者さんの診察を行うことが可能です。時間に対して診察できる患者さんの数が圧倒的に少なくなってしまう点で往診がなかなか浸透していかないと考えられます。地域の環境を考えた時に往診は必要であり、各医療機関でも可能な限り積極的に取り入れていくことが重要になってくるのではないかと感じました。

一ヶ月間の研修期間では普段の大学病院での勤務ではなかなかできない経験を行うことができました。特別養護老人ホーム等施設での医療は初めて参加し、往診でもかなり質の高い医療を提供することができるということに改めて気が付くこともできました。

また、院内では主に外来で研修をしましたが、大学病院では体験したことがないような処置が多数あり新鮮な気持ちで取り組むことができました。大学病院でも当直などで救急外来の診療を行うことはありますが専門の医師にすぐに相談することができます。しかし、地域の病院ではすぐにコンサルテーションを行うことができないケースがあり、これまでの自分であれば専門医に任せていた範囲についても初療を行う必要があります。そのような範囲までしっかりと考えながら診療に挑むことができたことは私にとってとてもいい経験になりました。

大学病院では基本的に急性期の医療を提供していましたが、今回の研修病院では急性期はもちろん、慢性期まで幅広い範囲の診療にあたっており、診療の違いに衝撃を受けました。急性期病院であれば早期の退院を目指すため食事の開始時期なども早い段階からスタート

させますが、今回の研修病院では血液検査の結果が改善するまで食事開始を待つなどのそれぞれの病院に合った治療法の選択があることを改めて学ぶことができました。

上記のように大学病院とは違った治療に対する考え方や自身の技術の向上を実感することができ、多くのことを吸収することができた研修だったと感じました。研修内容としても、大学病院とは違った医療に触れる機会をたくさんいただきとても良い一ヶ月間の研修であったと考えています。